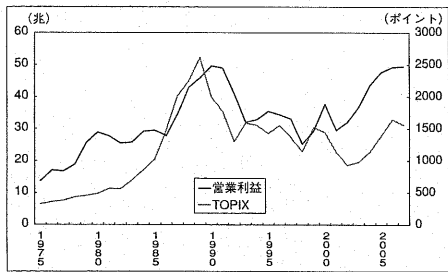


株価は企業業績を先見る



「前もって織り込んでいられるだろう。」
 金利、為替相場あるいは株式や債券市場などのマーケットの動きへの報道でよく耳にするのが、例えば次のような表現だ。
 「景気の先行きに警戒感が出たことから株式は売られている」
 「欧州の金融機関の決算が予想以上に悪いとの予想でユーロが売られる」
 これらはいずれも株式や為替相場といったマーケットが、实体经济の先行きを常に予想しながら、

ここでちょっととしたエピソードを紹介しようと思う。
 かつて是川銀蔵という相場師がいた。別名「コレギンさん」。昭和最後の相場師と呼ばれた人だ。1980年代初頭に、その当時は公開されていた高所得者名簿のトップに躍り出たことで一躍有名になった(個人情報保護の理念が浸透した今では信じられないだろう)。
 その莫大な個人所得を可能にしたのが、住友金属鉱山が所有する今や世界一の純度を誇る鹿児島の大蔵金鉱山。この株で大儲けしたのだ。
 これは晩年彼の側近にいたスタ

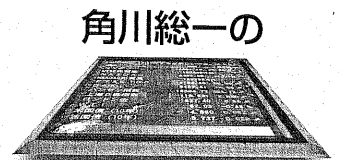
その価格を形成していることを示している。
相場師「コレギンさん」はどいつの成功したか?
 さて、以上のことは、視点を変えると「实体经济に何らかの変化が起きたときには、必ずといっていいほどマーケットがそれに反応する」といえるのではないだろうか。
 ここでは彼がロンドンの知り合いに調べてもらった。すると「どうやら社会主義から市場経済体制に転換したポランド、チェコあたりの企業から迂回してロンドン市場にまとまった買いを入れているらしい」ということだった。1990年前後のことだ。
 ここで彼は「旧東欧諸国はこれからインフラ(経済の基礎的條件)形成のために道路、通信などへの投資が増加するのは必然」と読んだのだ。そしてその時点で、銅の市況が上向けば儲かる日社の株を買い込んだというわけだ。そ

の後日社株は急騰した。
 この例は、实体经济で何らかの変化が起きるときには、必ずといっていいほどその兆候がマーケットの動きとして表れることを示す典型例だ。
 多少専門的になるが、最近では、昨前半時点で米国の社債の利回りが国債に比べて異常に高くなっているという動きがあった。これはその後のサブプライムローン問題の行方をすでに先見していたといえる(金融不安が高まると、信用度で劣る発行者が発行した債券は売られて価格が下がり、利回りは相対的に高くなる)。
 教科書で「マーケットは経済社会の鏡」とか「实体经济の結晶」といった表現に出くわしたことはないだろうか? こうした表現はまさに、以上のようなことを指していることなのだ。
 今回のまとめを述べよう。一歩先を読みただければ「短期金融」「外国為替」「株式」「債券」「商品(コモディティ)」などのマーケットの動きに注目すべし!

用 碁、将棋において「手を読む」こと、野球で「球筋を読む」こと、あるいはお百姓さんが「空模様を読む」こと。これらはいずれも「今を読む」ことなのではなく、「これからを読む」ことなのだ。
 「読みが深い」とは一般的に「将来を見通す洞察力がある」という意味で使われる。つまり「読む」とはほとんど「先を読む」なのだと考えたほうがいい。
 さて、社会人になるということ、経済合理性のルールに従って動くことが要求されるということ。
 学生時代は、経済合理性などの次、三の次だ。しかし「社会人」は、経済合理性に則して行動することが求められる。何しろ会社という存在は、優れて経済合理性を追求するものなのだから。
 つまり、いま我々を取り巻いている経済がどう動いているかをキヤッチする感性が必要だ。学生時代にこの種の訓練を受けてきた人はほとんどいないだろう。

マーケットの動きは实体经济を先取りする
 ではここから本題だ。「(一歩先の)経済」を読むとした場合、何を見ていけばいいのか。結論から言う。「マーケット」だ。
 多くの方は「株価は近い将来の企業業績に先じて動く」と聞いたことがないだろうか。そのまま解釈すれば「企業業績の先行きを知りたければ、株価を見なさい」ということなのだ。
 図表は株価と企業利益の推移を示したものだ。もう少し詳しく言うと、東京証券取引所に上場されている全銘柄を対象に毎日算出されているTOPIX(わが国を代表する株価指数)と東証株価指数と、わが国の全法人企業の営業利益(本業で儲けた利益)に有価証券や土地の売買で儲けた利益は含まない)がどのように推移してきたかを示している。
 注意深く見れば、株価が企業利益に先行して動いていることが多くいと分かる。これは、「株式市場の参加者は、一足先の企業利益を

予想しながら株式売買を日常的に行っている」ことを示している。
 平たく言えば「まだはつきりとは分からないが、今決算期の企業Aの利益は前期に比べて減少しそうだ」↓「であれば売っておこうか」と考える人が増える。その結果、株価は下がる。
 そして、その後実際に企業Aの利益は減少した(これを減益という)ことが明らかになる。つまり結果として株価の動きは、企業利益を「先取りしている」または



角川総一の
マーケット・リテラシー
 金融市場を読む、解く、話す力を養う
 File.045

社会人に求められる経済合理性を身につけるには?
**实体经济の変化の兆候を表す
 マーケットの注視が「経済」を読むコツ**